

「島に春の訪れを告げるむら芝居」 創作民話劇の定期公演が開催されました

赤泊演劇研究会は、地元で伝わる民話を活用した地域づくりのため平成4年から毎年、方言をふんだんに盛り込んで「ユーモアあふれる舞台」をモットーに、多くの仲間とともに創作民話劇を公演してきました。今年も創立25周年記念を迎え、3月6日(日)、赤泊総合文化会館を会場に、相川の千本地区に伝わる『黒い手拭』というお話しのお演が開催されました。

出演者は、5歳の保育園児から80歳代の高齢者までと幅広く、また、地元の民謡団体、和太鼓グループ、コーラスグループなど役者・裏方スタッフ総勢100人余りで舞台づくりに取り組んで来ました。訪れた観客からは、笑いや声援が送られ賑やかな舞台となりました。



主催した演劇研究会の菊池会長は、「演劇を通して村おこし」を合言葉に、脚本、演出、音楽、道具、照明など一切を住民の



手づくりで取り組んできました。これからも多くの仲間と共に、楽しい舞台づくりを目指して行きたい」と地域づくりに向けた抱負を語っていました。

なお、赤泊演劇研究会は長年にわたり佐渡の民話を題材にした創作民話劇の公演を通じて特色ある地域づくりに貢献し、郷土の伝統文化を次世代に継承し、地域の活性化に尽力したことが高く評価され、平成27年度新潟日報文化賞「社会活動部門・団体」に輝きました。

◆教育委員会南教育事務所

赤泊地区教育係

☎ 87-3141

こんにちは

国際交流員です



佐渡市の皆さま、こんにちは。
中国黒竜江省ハルビン市から参りました寧頭剛と申します。

平成28年4月から、佐渡市役所の国際交流員として勤務しています。私の故郷のハルビン市は古くから「東方のパリ」「東方のモスクワ」と呼ばれるハルビン氷祭りは世界三大氷祭りの一つです。

私は幼い頃から、日本のアニメを見るのが大好きで、特に「ドラえもん」「スラムダンク」「休さん」等は子供時代に欠かせない存在でした。アニメから影響を受けて、隣国日本への好奇心を膨らませました私は、大学受験の時には迷わず日本語を専攻しました。日本語を学び、日本人と交流する

うちに、日本人の仕事に対する真面目な姿勢、礼儀正しさが、日本で働き、「真の日本」を実感したいという私の夢を一層強くさせました。

国際交流員として佐渡市からの採用通知を受け取った時の喜びは今でも忘れられず、夢を叶えるための大切な一歩を踏み出せたと感じています。

4月13日、桜満開の時期に初めて佐渡市に来ました。佐渡市は東京等の大都市と違い、海に囲まれ、山々も美しく、長い歴史や文化があり、さまざまな楽しみ方ができる場所だと体感しました。日本での生活は、今回が初めてです。仕事や今後の生活には一抹の不安もありますが、佐渡のかたがたは親しみやすく、仕事面だけでなく、生活面においても頼りがいがあり、自信を持って臨めそうです。

これからの一年間、中国国内での記者・編集者経験を生かし、国際交流員として佐渡市の情報や魅力を中国国民に伝えていきたいと思っています。また、佐渡市の皆様にも中国各地の人情や風俗などの魅力を伝えられるよう頑張りたいと思います。

ご指導のほど、よろしくお願い致します。

◆市役所観光振興課

3資産プロモーション室

☎ 63-5116